

2019年12月期 決算補足説明資料

株式会社 ミズホメディー(証券コード4595)

2020年3月5日

- I 2019年度 決算実績と
2020年度 業績予想（未定）**
- II 今後の成長戦略**
- III 事業概要（参考）**

会社概要



- 商号 株式会社 ミズホメディー（証券コード4595）
- 設立 1977年11月2日
- 本社所在地 佐賀県鳥栖市藤木町 5 番地の 4
- 代表者 代表取締役会長兼社長 唐川文成
- 従業員数 175名（2019年12月31日現在）
- 事業内容
 - ・病院・開業医向け体外診断用医薬品の開発・製造・販売
 - ・OTC（薬局・薬店）向け検査薬の開発・製造・販売
- 主要取引先 株式会社メディセオ、東邦薬品株式会社
株式会社スズケン、アルフレッサ株式会社
株式会社バイタルネット、富士フイルム株式会社 他
- 営業拠点
 - ・本社 ・東京営業所 ・大阪営業所
 - ・名古屋営業所 ・その他各地駐在
- 開発拠点
 - ・本社（鳥栖）・遺伝子研究所(久留米)



本社・工場（佐賀県鳥栖市）



久留米工場・遺伝子研究所（福岡県久留米市）

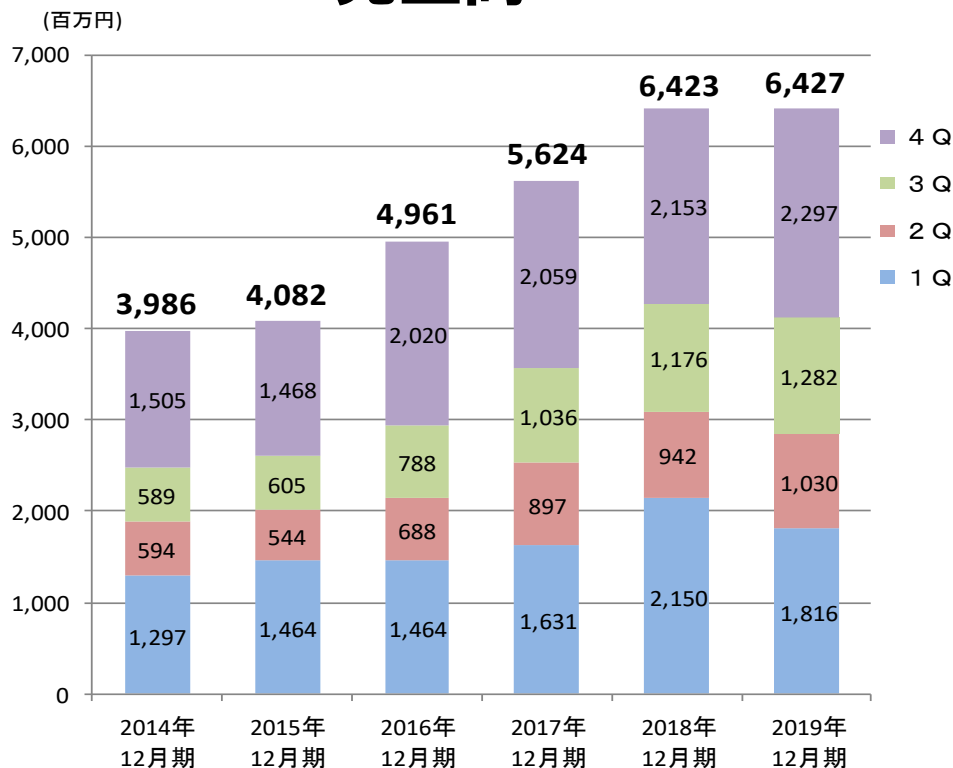
I 2019年度 決算実績と 2020年度 業績予想(未定)

2019年12月期 決算実績 業績の推移（売上高、経常利益・当期純利益）

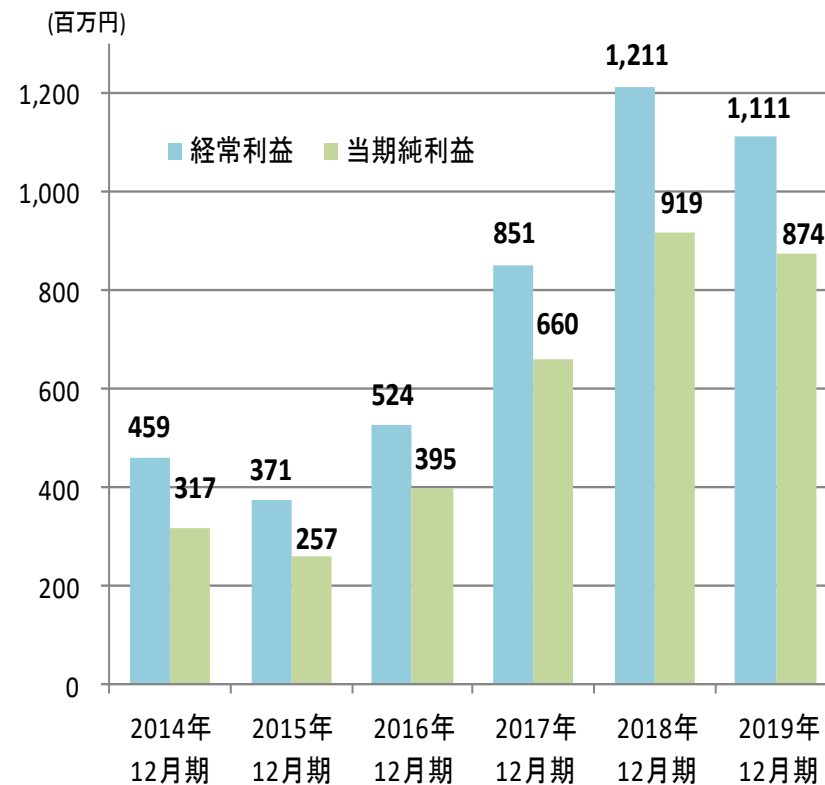


- 過去最高売上高を連続更新中
- 売上高の約50%はインフルエンザ検査薬
- 売上高及び利益は、第1・第4四半期（インフルエンザ流行期）に集中

売上高



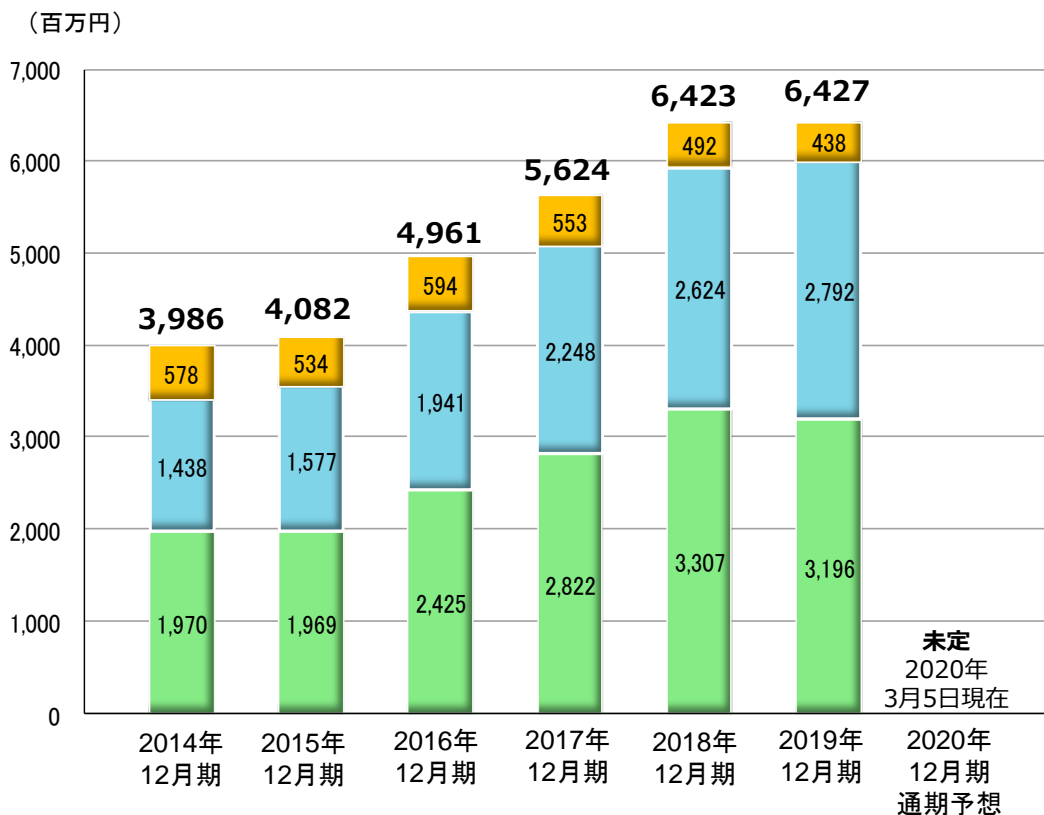
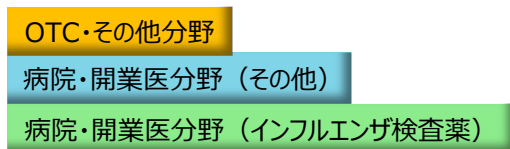
経常利益・当期純利益



2019年12月期 決算実績 市場分野別の売上高推移



市場分野別の売上高



2019年12月期 実績 (6,427百万円 前期比0.1%増)

▶ 流行の影響を受けたインフルエンザ検査薬の減収分をその他感染症項目の検査薬の増収でカバー

■ 病院・開業医分野 (5,988百万円 1.0%増)

◇ インフルエンザ検査薬 (3,196百万円 3.3%減)

・2018/2019シーズンの流行は、ピーク時は前シーズンを上回る強い流行となったものの、その後急速に終息し検査薬の需要も急減

◇ その他感染症項目他 (2,792百万円 6.4%増)

・その他感染症項目の検査薬は、一部流行の弱さの影響を受けたものの、製品ラインナップ数の充実という強みにより、概ね全項目が前期より増加
RSV/ヒトメタニューモ、肺炎球菌/レジオネラ、ノロウイルス、アデノ、Strep A、マイコプラズマ、ロタ/アデノ検査薬など

■ OTC・その他分野 (438百万円 10.9%減)

◇ 妊娠検査薬及び排卵日検査薬

他社との価格競争が続くなか、販売促進企画等で売上高の維持に努めるも苦戦

2019年12月期 決算実績 損益計算書 P/L (前期比・予想比)



- 売上高 6,427百万円 (前期比 0.1%増、予想比 9.1%減)
- 経常利益 1,111百万円 (前期比 8.3%減、予想比 14.9%減)

- ✓ 前期比：流行の影響を受けたインフルエンザ検査薬の減収分を、その他感染症項目の検査薬の増収でカバー。利益は新工場事業開始に伴う費用や固定費の増加等により、減益。
- ✓ 予想比：その他感染症項目の検査薬の売上高は前期比では増加するも、各々の流行の弱さの影響もあり、予想を大きく下回る。この売上高の乖離に伴い利益も未達。

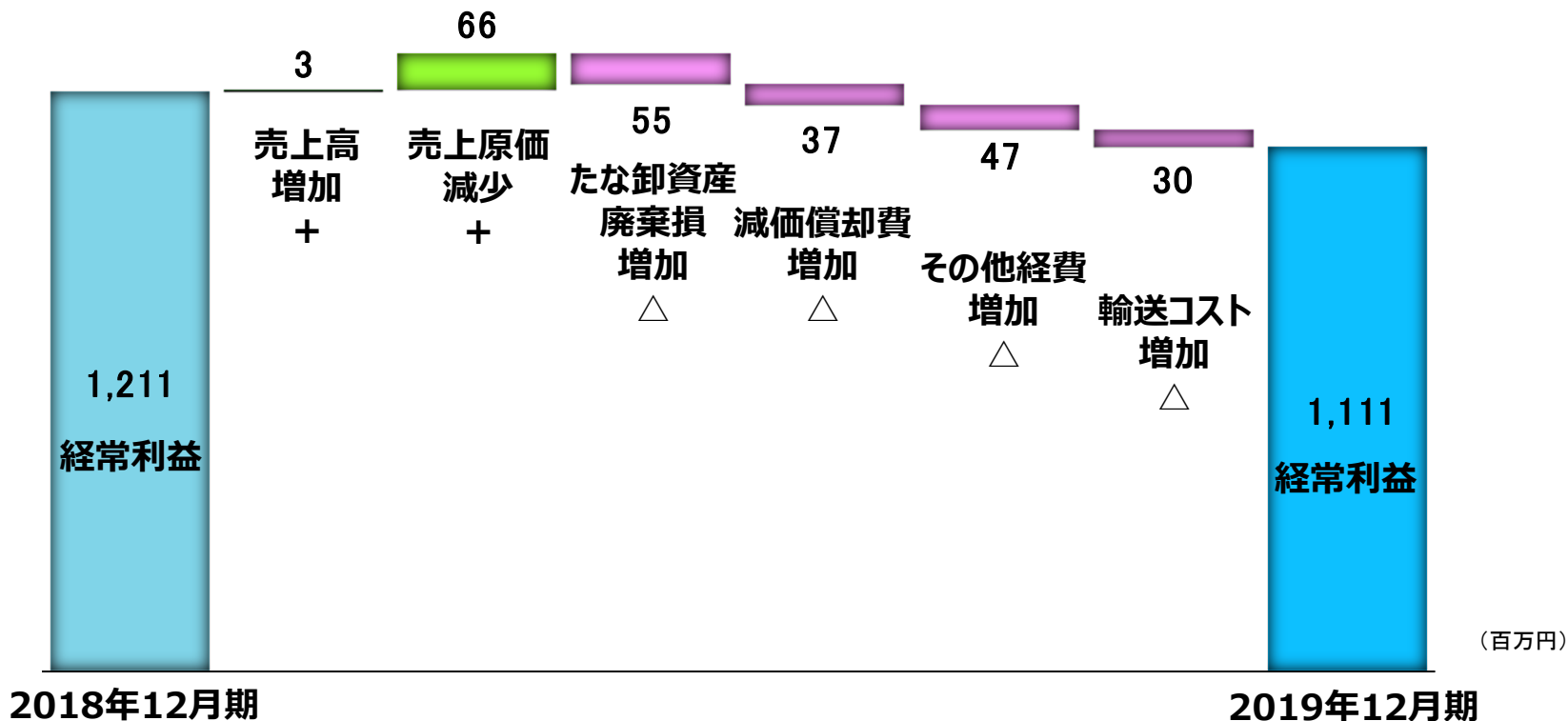
(百万円)

	2018年12月期		2019年12月期							
	前期実績		5/13修正予想		当期実績		前期比		予想比	
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	増減率 %	増減額	増減率 %
売上高	6,423	100.0	7,072	100.0	6,427	100.0	3	0.1	△645	△ 9.1
差引売上総利益	4,326	67.4	4,775	67.5	4,339	67.5	12	0.3	△436	△9.1
販売費及び一般管理費	3,105	48.3	3,454	48.8	3,228	50.2	122	3.9	△226	△6.6
営業利益	1,220	19.0	1,321	18.7	1,111	17.3	△109	△ 9.0	△210	△ 15.9
経常利益	1,211	18.9	1,306	18.5	1,111	17.3	△100	△ 8.3	△195	△ 14.9
当期純利益	919	14.3	965	13.6	874	13.6	△44	△ 4.9	△90	△ 9.4

2019年12月期 決算実績 経常利益 増減要因



- 売上高3百万円の増加に加え、売上構成の変化により売上原価率が改善するも、製品改良に伴うたな卸資産廃棄損が増加
- 久留米工場・遺伝子研究所の事業開始に伴う一時費用の発生、減価償却費の増加、輸送コストの増加などにより、2019年12月期の経常利益は、100百万円減少し、1,111百万円

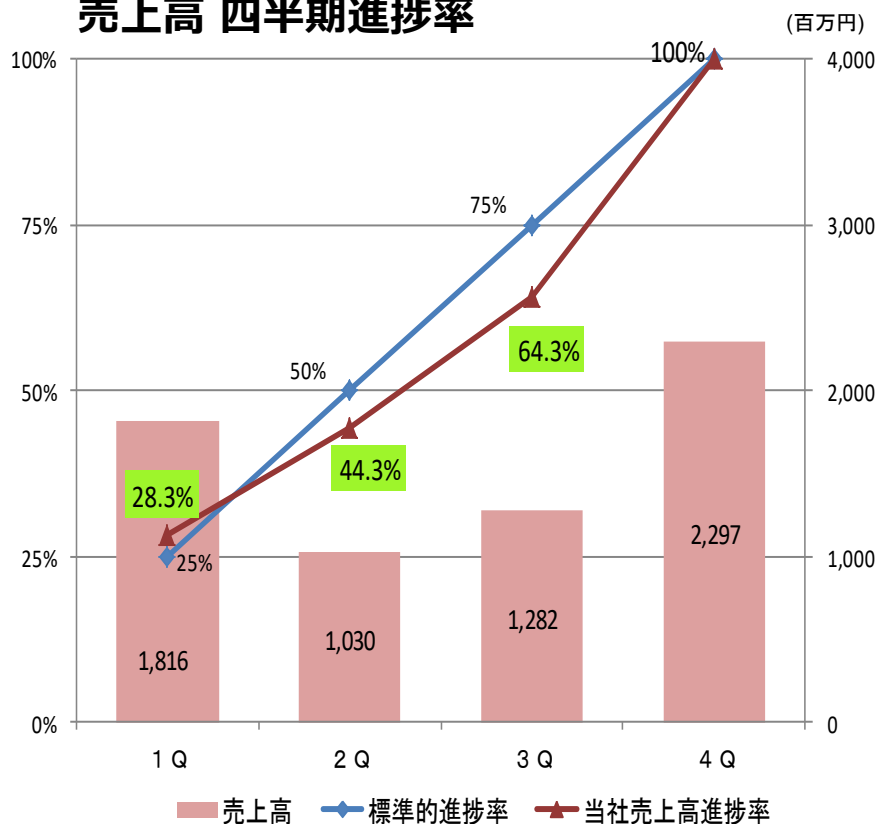


2019年12月期 決算実績 四半期進捗率の推移 (売上高・営業利益)

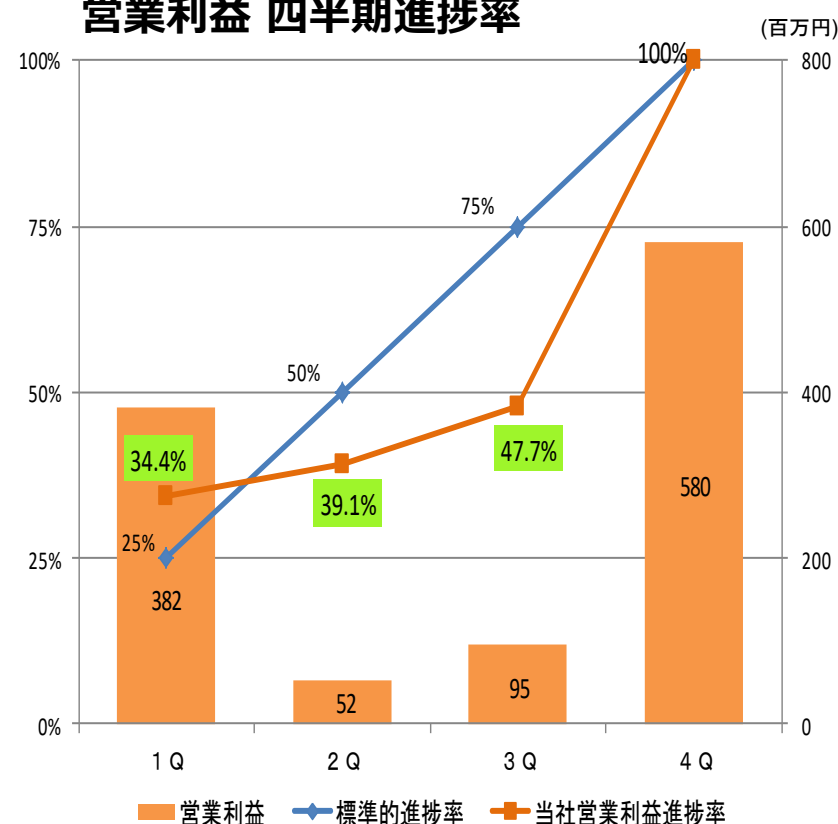


- 2019年12月期 四半期進捗率の推移 (通期実績を100%とした場合)
- 当社の特徴：『インフルエンザの季節変動により、売上高が1Qと4Qに集中する』ため
四半期進捗率の推移は、季節変動のない標準的進捗率から大きく乖離する
⇒ 3Q時点の進捗率は、売上高 64.3%、営業利益 47.7%

売上高 四半期進捗率



営業利益 四半期進捗率



2019年12月期 決算実績 貸借対照表 B/S (資産)



(百万円)

	2018年 12月期	2019年 12月期	増減額	主な増減内容
流動資産	3,694	3,852	158	
現金及び預金	235	217	△18	
売掛金・電子記録債権	2,229	2,489	259	・第4四半期の売上高の増加
たな卸資産	1,151	1,141	△9	
その他流動資産	78	4	△74	
固定資産	1,888	2,513	625	
有形固定資産	1,602	2,214	612	・主に久留米工場・遺伝子研究所の 建物及び設備取得による増加
無形固定資産	15	13	△1	
投資その他の資産	270	285	14	
資産合計	5,582	6,366	783	

2019年12月期 決算実績 貸借対照表 B/S (負債・純資産)



(百万円)

	2018年 12月期	2019年 12月期	増減額	主な増減内容
流動負債	1,703	1,343	△359	
買掛金・電子記録債務	568	374	△194	・主に買掛金の減少
短期借入金	377	164	△212	・短期借入金の返済 △300
その他流動負債	757	804	47	
固定負債	723	1,269	545	
長期借入金	25	513	488	・新工場等の設備資金借入 700
その他固定負債	698	756	57	
負債合計	2,427	2,612	185	
株主資本	3,155	3,753	598	
資本金	464	464	—	
資本剰余金	274	274	—	
利益剰余金	2,417	3,015	598	・2018年12月期配当金 △276 ・当期純利益 874
純資産合計	3,155	3,753	597	
負債純資産合計	5,582	6,366	783	

2019年12月期 決算実績 キャッシュ・フロー計算書



(百万円)

	2018年 12月期	2019年 12月期	主な内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	670	745	<ul style="list-style-type: none"> ・税引前当期純利益 (+1,170) ・減価償却費 (+165) ・売上債権の増加 (△259) ・仕入債務の減少 (△194) ・法人税等の支払 (△292)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△717	△762	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得 (△759) (新工場・研究所の建物及び設備等)
財務活動によるキャッシュ・フロー	16	△0	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の純減 (△300) ・長期借入れ (+700) ・長期借入金の返済 (△124) ・配当金の支払 (△276)
現金及び現金同等物の増減額	△30	△18	
現金及び現金同等物の期首残高	265	235	
現金及び現金同等物の期末残高	235	217	

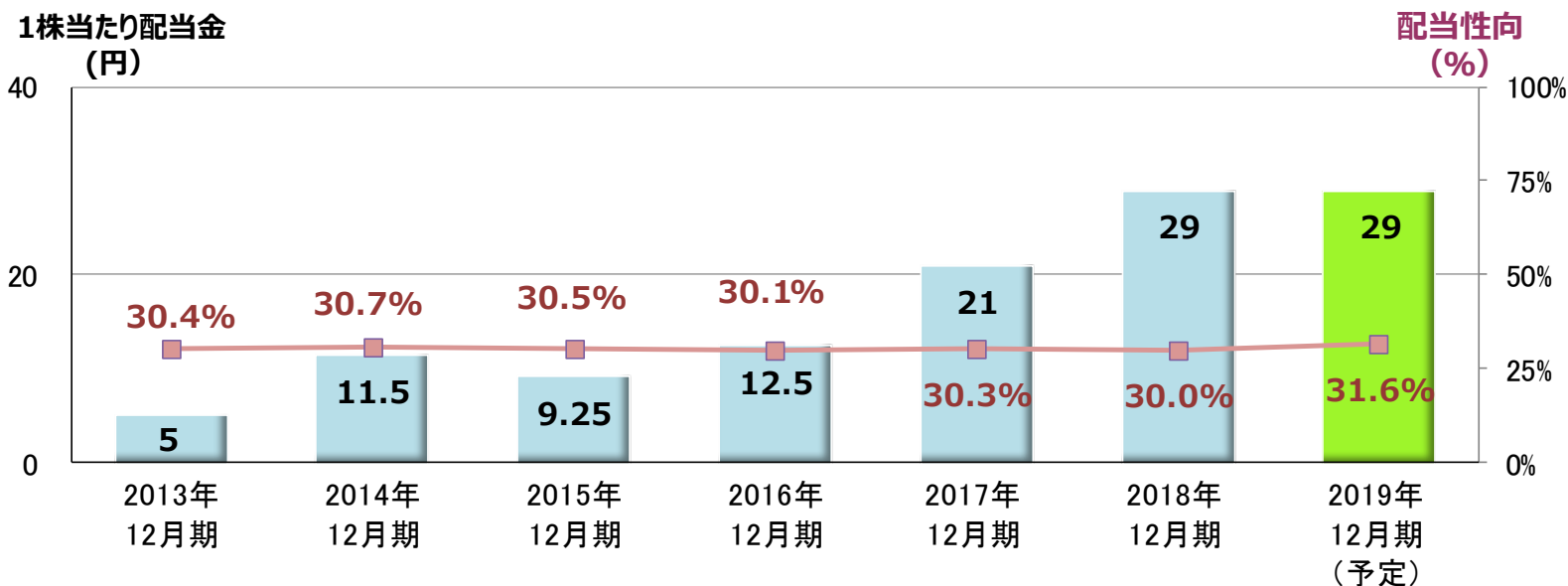


- ◆ 2020年12月期の業績予想につきましては、2019/2020シーズンのインフルエンザの流行の規模が例年と比べて弱い水準で推移しており、また、例年とは異なる傾向を示しているため、今後の流行の推移を予測することが困難な状況であります。
- ◆ インフルエンザ検査薬は当社の売上高の約50%を占めており、流行の規模が当社の業績に与える影響の大きさに鑑み、現時点で合理的な業績予想及び配当予想の算定が困難であると判断したため、公表を差し控えさせていただいております。（2020年3月5日現在）
- ◆ 今後、合理的な算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

配当方針

『業績に応じた配当を行うことを基本としつつ、配当性向、企業体質の一層の強化及び今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを総合的に勘案して決定』

- この方針を踏まえ、**配当性向30%**を目標
- 2019年12月期の配当（予定）は、1株当たり**29円（配当性向 31.6%）**
- 2020年12月期の配当予想は、未定（2020年3月5日現在）

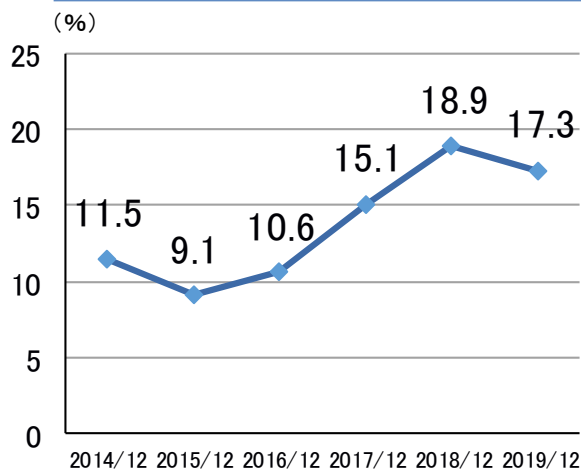


※1株当たりの配当金は、2015年10月の株式5分割、2017年7月及び2018年6月の株式2分割に伴う影響を加味しております。

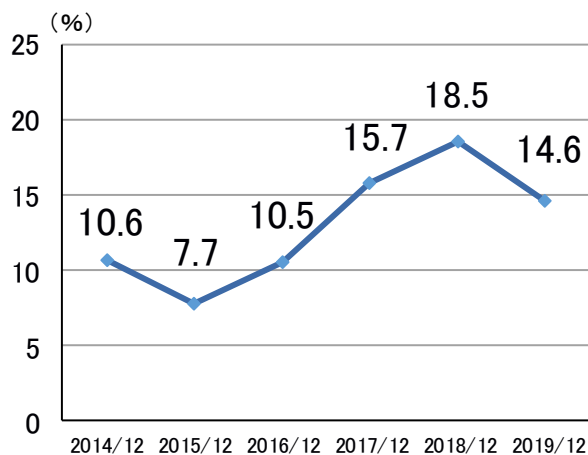
財務比率等の推移



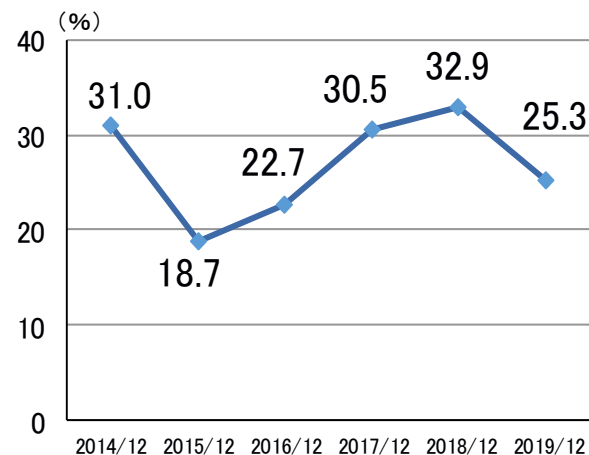
売上高経常利益率



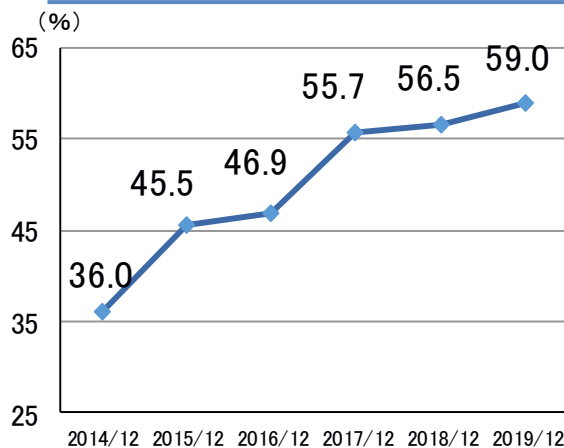
総資産利益率 (ROA)



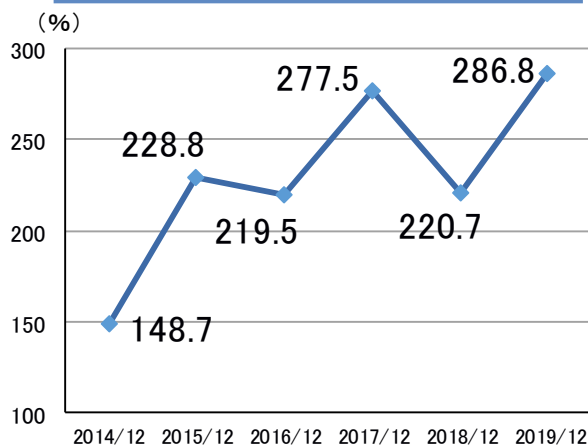
自己資本利益率 (ROE)



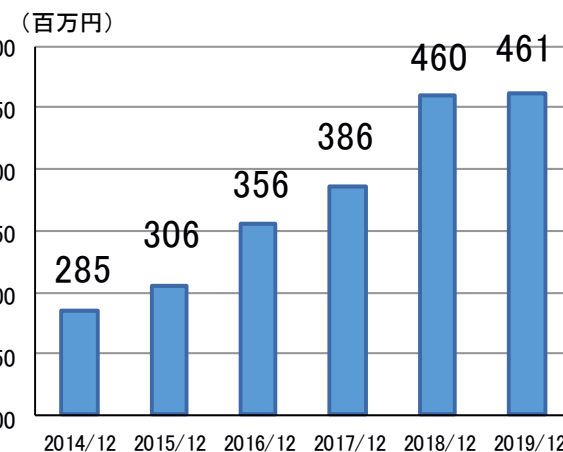
自己資本比率



流動比率



研究開発費推移



Ⅱ 今後の成長戦略

遺伝子抽出
PCR増幅
遺伝子検出

オールインワン試薬による 遺伝子POCT検査を実現



スマートジーン® Myco



Smart Gene®

全自動遺伝子解析装置 Smart Gene

特定保守管理医療機器/設置管理医療機器

▶ 遺伝子POCT検査機器・試薬システムの普及と実現

感染症の早期診断と早期治療

PCR検査



遺伝子POCT検査

<実施施設>

大学・基幹病院、地方衛生研究所、
民間検査センター

<実施施設>

クリニック、市中病院

<課題>

検査期間、高価な設備
専門の技師、ランニングコスト

薬剤耐性菌の早期鑑別

薬剤感受性試験



薬剤耐性変異
遺伝子POCT検査

<実施施設>

大中病院微生物検査室
民間検査センター

<実施施設>

クリニック、市中病院

<課題>

検査期間
微生物検査設備・専門の技師

遺伝子POCT検査機器・試薬システム

Smart Gene®システム

- ・院内検査が可能
- ・診療の場で結果出力
(早期治療と的確な投薬)
- ・適切な抗菌薬の使用
(薬剤耐性遺伝子変異の有無の判定により投薬選択)

コンパクトで
低コストな装置

簡易迅速な
測定操作



▶ 遺伝子検査のPOCT化による遺伝子検査マーケットの拡大

● 感染症診断における遺伝子POCT検査の実用化と普及

- ・ 簡易で低コストな機器試薬システムによる感染症の原因菌やウイルスを早期に検出
 - ⇒ 初期感染の見逃し防止
早期治療（一般病院検査室、開業医での検査実施）
院内・家族内感染の防止
- ・ 各種抗菌剤に対し耐性化した遺伝子変異部を増幅して特異的に検出
 - ⇒ 的確な投薬の選択（重篤化の低減と死亡率の低下）

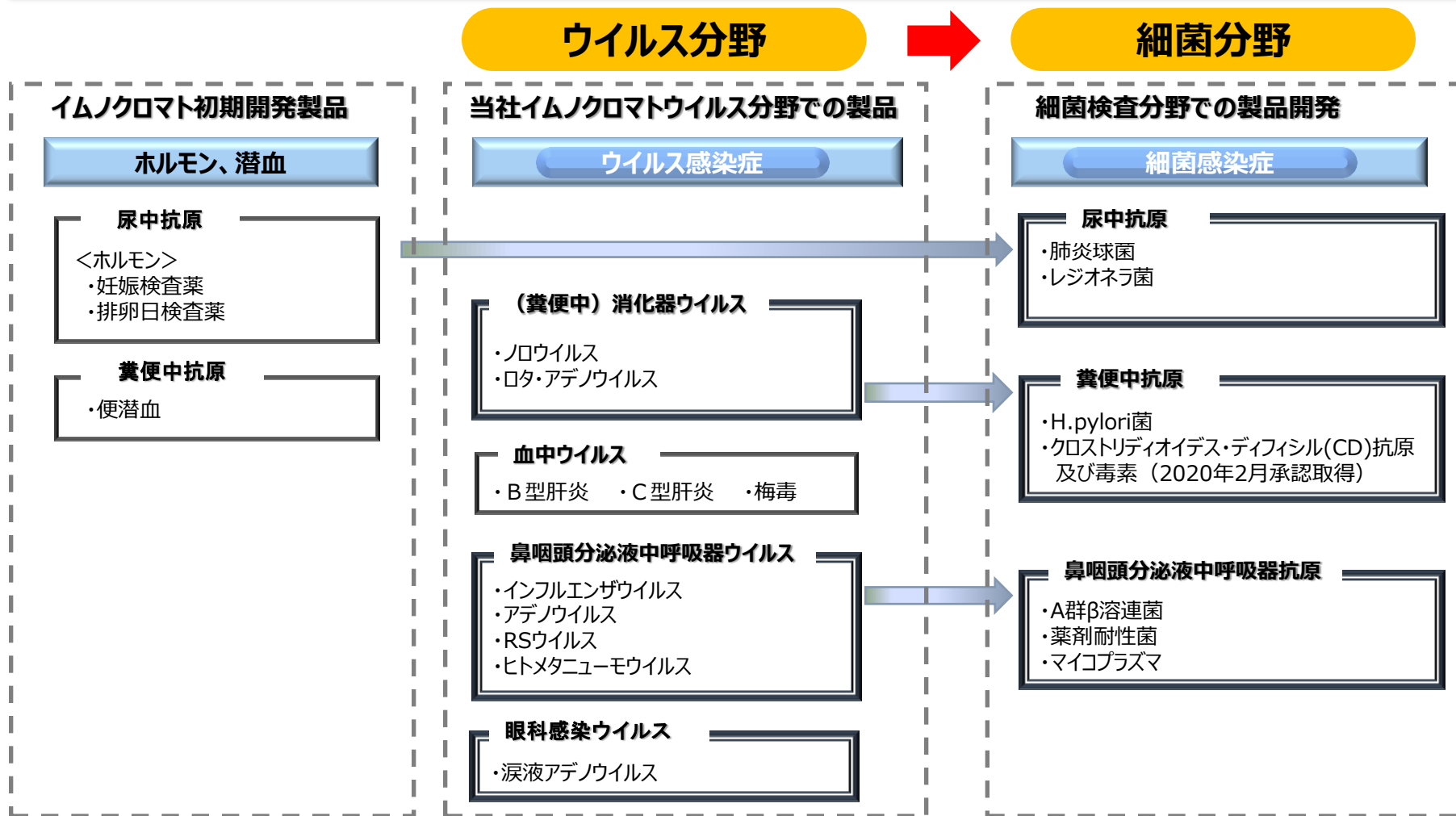
● 遺伝子POCT検査マーケットの拡大

- ・ 新たな遺伝子POCT検査項目の開発と製品化（夏場および通年流行の感染症）

<開発項目分野>

- ・ 呼吸器感染症項目（ウイルス、細菌）
- ・ 消化器感染症項目（ウイルス、食中毒菌）
- ・ 泌尿器感染症、婦人科感染症項目（細菌）
- ・ 薬剤耐性菌項目

クイックチェイサーシリーズの拡大



技術をベースにしたハイブリッドな成長戦略

新規診断技術の創出

マーケット展開

技術革新 [ウイルス・細菌に特化]

病院・開業医分野

OTC・その他分野

確定診断技術

遺伝子POCT検査による
確定診断機器・試薬システムの市場展開

- ・呼吸器感染症項目
- ・消化器感染症項目
- ・泌尿器感染症、婦人科感染症項目
- ・薬剤耐性菌項目



- ・感染初期の確定診断
需要を拡大

◎環境・食品検査分野
への応用開発

- ・遺伝子POCT技術を応
用した環境・食品微生物
検査への展開

スクリーニング検査技術

クイックチェイサーシリーズのシェア拡大

- ・対象疾患の拡大
- ・既存製品の改善・改良

◎感染症マルチ検査システムの開発（免疫、遺伝子）

- ・正確性・迅速性への更なるシーズ開発



- ・ウイルス分野から
細菌分野への市場
創出

スイッチOTCマーケット
での業績拡大

- ・スイッチOTC製品の
先発販売
- ・武田コンシューマーヘル
スケアとの販売提携

安定的収益と企業成長

自社開発・製造販売一貫体制の強みを活かした両分野での成長戦略

Ⅲ 事業概要（参考）

「病院・開業医分野」と「OTC・その他分野」



病院・開業医分野



免疫血清
POCT

遺伝子
POCT



OTC・その他分野



OTC

農業



※POCT (Point of Care Testing) : 診察室、病棟及び外来患者向け診療所など、患者に近い医療現場での検査



① POCT迅速診断キット (目視判定)

クイック チェイサー シリーズ

大病院からクリニックまで、どのような医療現場でも使うことができる、POCT製品(迅速診断キット)シリーズ

呼吸器感染症検査薬

インフルエンザウイルス



アデノウイルス



RSウイルス



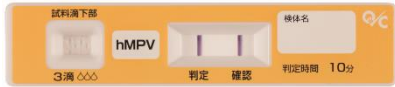
Strep A (A群β溶連菌)



RSV/hMPV



hMPV



マイコプラズマ



肺炎球菌/レジオネラ



消化器感染症検査薬

ノロウイルス



ロタ/アデノ

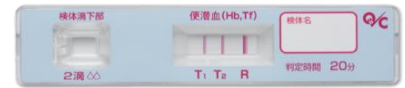


H.ピロリ



尿糞便検査薬

便潜血



② POCT機器試薬システム（機器判定）



➤ 高感度感染症迅速診断システム

- ◎ 当社のメンブレン技術と富士フィルム株式会社の写真の現像技術を融合した増幅反応により高感度化を実現
- ◎ インフルエンザウイルス、マイコプラズマ、RSV/Adeno の高感度製品3項目、アデノウイルス、Strep A(A群β溶連菌)の計5項目をラインナップ

デンストメトリー分析装置

クイックチェイサー Immuno Reader II



【製品の特長】

- ◆ 早期診断が可能
(発症初期の診断精度向上)
- ◆ 装置による結果判定
(判定結果はモニター表示
とプリントアウト)

【IIの実用性向上ポイント】

- ◆ コンパクト化（省スペース）
- ◆ タッチパネルの採用
(操作性・視認性向上)
- ◆ バーコードリーダー搭載
(検体ID情報等読取可)

【専用試薬】

クイックチェイサー® Autoシリーズ

Flu A,B



Myco



RSV/Adeno



Adeno



Strep A



③ 遺伝子POCT機器試薬システム



▶ 全自動遺伝子解析装置 (PCR・Qプローブ法)

微生物/遺伝子検査が身近に

※2019年7月に「肺炎マイコプラズマ肺炎に対する治療指針」(日本マイコプラズマ学会策定)が改訂され、急性期の確定診断において実施することが望ましいとされるマイコプラズマ核酸増幅法として、従来のLAMP法に加え、新たにQプローブ法が追加されました。

全自動遺伝子解析装置 Smart Gene



【機器の特長】

- ◆ 迅速判定が可能
- ◆ 1ステップ自動判定。試薬ロスができません
- ◆ 核酸分子の配列情報を解析できます
- ◆ コンパクト設計の卓上タイプ
- ◆ タッチパネルでスムーズな操作

マイコプラズマ核酸キット

スマートジーン® Myco

専用試薬



【試薬の特長】

- ◆ マイコプラズマ核酸検出が試料滴下からわずか約30~50分の迅速判定
- ◆ 煩雑な前処理不要で、院内検査が可能
- ◆ マイコプラズマ 23S rRNAの変異株も含め全てが検出可能



➤ 妊娠検査薬・排卵日検査薬

◎ 自社ブランド「P-チェック」での販売や大手チェーン店とのPB提携も実施

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



※妊娠検査薬は早期に展開しシェアトップ

◎ 武田コンシューマーヘルスケア(株)販売のハイテスターシリーズ

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



IRに関するお問い合わせ先

株式会社ミズホメディー 総務部

電話：0942-85-0303

お問い合わせフォーム：https://www.mizuho-m.co.jp/ir/ir_contact

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。